

HOPE



2012.1

No.21

[市立芦屋病院だより]

事業管理者あいさつ 「新春に思う」

市立芦屋病院 事業管理者 佐治 文隆



新年おめでとうございます。

昨年2011年を語るとき、3.11の東日本大震災とそれに起因する原子力発電所事故は抜きに出来ません。バブル崩壊後に色々と指摘されてきたわが国の安全神話に対する疑問がここに来て吹き出したというより、むしろ安全神話が崩壊したと言っても良い状態になりました。さらにアメリカのみならず、ヨーロッパの経済悪化が追い打ちをかけ、不況下の円高、日本産業の空洞化を加速させています。後世から振り返ると、2011年は政治・経済をはじめとして、すべてにわたりわが国のターニング・ポイント（転回点）であったと認識されるかも知れません。

日本国民が閉塞感、脱力感にさいなまれた昨年でしたが、9月にイギリスの有名な科学雑誌ザ・ランセット (The Lancet) が、国民皆保険50周年の日本特集号を発行しました。海外の著名な科学雑誌が健康保険制度でわが国を取り上げるのは異例のことです。第二次世界大戦後、日本人の平均寿命が驚異的に伸びて、今や日本人女性の平均寿命は25年間連続して世界第1位、日本人男性も少し後退したとは言え世界第5位である原因の一つに、進歩した医療に貧富の差なくフリーアクセス出来る日本の健康保険制度を挙げています。

世界に誇ることの出来る日本の健康保険制度ではありますが、ここに来て多くの問題点が露わになったことも、同誌は指摘しています。そのいくつかを挙げますと、まず高齢化社会を迎える病者が増加し、健康保険制度が財政的危機にあることです。年金制度同様に若い健常者が高齢者を支える構造ですので、今後医療費の増大はうなぎ登りが予想され、財政破綻が懸念されます。次に、従来機能してきた医療費抑制政策と医療の質の維持の共存も困難になりつつあることです。この原因として目まぐるしい診療報酬改訂、医事紛争を恐れる萎縮医療、医療の質に関するベンチマークの不備などがあります。

目を地域医療に向けますと、依然として診療科による医師の偏在、看護師不足などの問題は残るもの、病院と病院間（病病）・病院と診療所間（病診）連携が進み、疾患別クリニカル・パス（診療計画書）の採用などで医療の標準化が進行しています。効率的で且つ良質の医療の提供に向けての努力は、往々にして旧来の医療サービスを望む患者や家族に不満を生むことも懸念されます。しかし、わが国の水準の高い医療レベルを守るためにも、理解を深めていただきたいところです。

医療を取り巻く環境は厳しいところですが、わが市立芦屋病院は本年6月に念願の新病棟が完成します。併せて改装中の外来棟も全面リニューアルしてオープン予定です。病院の機能的には、緩和ケア病棟の新設、消化器センターの設置など新しい診療機能を追加しての新病院です。新病院オープンに向けて優秀な人材の確保も着々と進んでいますので、どうぞご期待下さい。なお、平成24年度は市立芦屋病院創立60周年の節目の年もあります。記念事業も企画していますので、こちらも楽しみにしていただきたいと思います。



事業管理者 のつぶやき

市立芦屋病院 事業管理者 佐治 文隆

◆ ◆ ◆ 龍生九子 ◆ ◆ ◆

職場では白衣を着ることが多い私にとって、ネクタイは自己主張が出来るアイテムの一つです。幾何学模様のネクタイも好きなのですが、動物柄も少なからず持っています。その中の一つに、数々の動物が楽しげに遊んでいるコミカルな柄のものがあります。前任地の病院で私がタイ王国の国立病院と姉妹病院の提携を結んだ縁から、昨年来日された病院管理者からプレゼントされた品物で、言うまでもなくタイ・シルク製品です。動物柄に見入っている私に、これは十二支をあらわす動物たちです、と説明がありました。そう言わればなるほど何種類もの獣を散りばめたパターンです。十二支は中国や日本など漢字圏に特有のものと思っていたが、漢字を使わないタイやベトナムでも十二支と同様のものがあるのですね。ただ使われる動物に若干の違いがあるようで、タイでは未(ひつじ)は山羊、亥(いのしし)は豚に変わっています。また、私のネクタイには十二支に加えて象が入っているのが、いかにもタイらしくてご愛敬です。

今年の干支の「辰(竜・龍)」については、漢字圏、非漢字圏を問わず十二支に含まれています。しかも龍だけが想像上の動物で、他はいずれも実在する生き物ばかりです。古来中國では、龍は水から連想される雨、雲、雷を象徴するものとされ、龍には水神の性格を与えていると言います。そのため架空動物である龍の頭を屋根に置くことにより、自然の脅威から守ってくれる象徴であるとともに、恐ろしい火災を消す力を持つ存在としてあがめたのでしょうか。琉球王朝時代に中國と交易の深かった沖縄首里城の屋根に龍頭があるのも納得されます。日本の城の天守には魚の反り返った形で鰐(しゃちほこ)が飾られますが、これもまた水に深い縁があることは言うまでもありません。

昨年は、3月に東日本大地震による大津波、9月に台風12号により紀州大水害と、水神さまの龍に大暴れされた一年で

した。今年は、龍は竜でもドラゴン、それも「ネバー・エンディング・ストーリー」に見られる白いドラゴンのように、人間に優しい龍が活躍する年であって欲しいと切に願います。



龍は人智を超えた権威の象徴として、畏怖の念を以て迎えられていますが、龍には子供たちがいて親龍を助けて人間世界に親しまれています。一説には九子、あるいはそれ以上いるとされています。面白いことに龍の子供たちは親とはまったく似ておらず、その上それぞれが全然違う姿と性格を持っているそうです。たとえば竜に似た形の「鼈負(びき)」は重いものを負うことを好み、縁の下の力持ちのような働きをします。「龍生九子」は兄弟であっても性格が違う意味の四文字熟語ですが、各々が得意技を生かして親を助けるとされます。

病院という成龍には、多数の子龍が存在します。医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、言語療法士、臨床工学技士、管理栄養士、診療情報管理士など、市立芦屋病院で直接医療に携わる兄弟姉妹だけでもざつと数えて九子を超えます。総務課事務や医事業務、あるいはコンピューターのシステムエンジニア、調理師、電気技師などの職員、さらにはボランティアなど多数の子供たちがそれぞれの得意技を生かして親を助けています。龍の子供たちのチームワークこそ「患者中心のチーム医療」の原点であり、根幹をなすものと私は思います。

事業管理者のつぶやきについてはホームページにも連載しておりますのでぜひご覧下さい。

市立芦屋病院 ご案内



交通案内

JR 芦屋駅、
阪急芦屋川駅から



タクシー
約5分



バス
約15分



徒歩
約30分



<http://www.ashiya-hosp.com>

市立芦屋病院について
さらに詳しい情報については、ホームページをご覧下さい。



日本病院機能評価機構 認定施設 (ver 6)

市立芦屋病院

〒659-8502 芦屋市朝日ヶ丘町39-1
TEL:0797-31-2156 FAX:0797-22-8822
ホームページ <http://www.ashiya-hosp.com>

1月

院内の催し・各教室のご案内

市民ギャラリー

日 時 1月1日(日)～1月31日(火)
 出展名 屋代 知則(やしろ とものり)作品展
 場 所 市立芦屋病院4階
 連絡通路展示ギャラリー



芦屋病院 マチネコンサート

テーマ 日本では現役ピアニスト最高齢の演奏会
 日 時 1月8日(日)午後2時30分～午後3時30分
 場 所 外来棟5階 待合ホール 黄色いピアノ前
 出演者 横井 和子(よこい かずこ)



両親学級

テーマ お産の経過・あかちゃんのお風呂
 日 時 1月14日(土)午前10時～12時 場 所 市立芦屋病院 南病棟1階講義室
 対 象 妊娠22週以降の妊婦さんとパートナー(5組10名)
 問い合わせ 市立芦屋病院 産婦人科外来(電話は13時以降)

医療よろづ相談

日 時 毎週火曜日 午前10時～12時
 場 所 芦屋市保健福祉センター
 当院の看護師が医療相談を行っています。秘密厳守、料金無料です。
 ぜひお気軽にお越しください。

糖尿病教室

テーマ 食事療法③間食と補食
 日 時 1月13日(金)午後1時30分～午後3時
 場 所 市立芦屋病院 南病棟1階講義室
 参加料 500円 問い合わせ 市立芦屋病院 栄養管理室

公開講座

テーマ 冬季の呼吸器感染症 市立芦屋病院 血液内科部長 松梨達郎
 日 時 1月28日(土)午後2時～3時30分
 場 所 芦屋市民センター401号
 問い合わせ 芦屋市立公民館 TEL : 0797-35-0700

地域医療まもり隊～開業医の先生紹介～

第4回

医療法人 昭圭会 南芦屋浜病院



南芦屋浜病院には、内科・脳神経外科・整形外科・外科の4診療科があり、入院は急性期病床60と亜急性期病床20で運用しています。リハビリにも力を入れており、身体機能障害のみならず、脳疾患後の言語障害に対するリハビリも積極的に行ってています。最近は外来・入院患者様ともに高齢の方が多くなっていますが、安心・安全を第一としながら、優しく・いたわりのある医療を目指しています。また、救急指定病院として、芦屋市は勿論のこと神戸市東部や西宮市などから多くの一次・二次救急患者様の受入れをしています。しかし、特に夜間については宿直医の専門性の問題などから、必ずしも十分な対応ができていないのが現状です。今後は市立芦屋病院および芦屋セントマリア病院と緊密な連携をとりながら、芦屋市民の急病に対処すべく一層努力したいと思います。また、日常の診療に関しても、診療内容の一層の充実が計られ、病院の新・改築が着々と進行している市立芦屋病院や市内各診療所との間で、医療連携が一層発展していくことを念願しています。

芦屋セントマリア病院



芦屋セントマリア病院は、平成22年4月より急性期病院として、安心して医療を受けて頂けるよう「24時間・365日」体制でスタートいたしました。

これまで消化器科の救急が中心でしたが、今年4月より、副院長に整形外科の中西医師を迎えると共に、理学療法士を増員し、手術からリハビリまでトータルに治療が出来る環境が整いました。また、看護体制を10:1に上げることにより、患者様により質の高いサービスが提供できるようになりました。さらに8月からは人工透析室を14床オープンし、通院だけでなく入院透析が行える施設を開設致しました。

地域医療連携室も開設し、各種検査予約や急な病状悪化の患者様の受け入れ、ご相談等の医療機関との連携にも力をいれております。よりよい医療を提供できる体制を構築し、地域の皆様に貢献できればと考えております。

マンモグラフィ検診施設画像認定を取得しました!!

当院では平成23年12月1日にマンモグラフィ検診施設画像認定を授証しました。これは乳房撮影の画像、品質管理、被ばく線量が基準値を満たし、乳がん検診の「質の高さ」を認められた施設にだけ与えられるものです。当院では、検診マンモグラフィ読影認定医師と検診マンモグラフィ撮影認定技師が在籍しており、今後も良質な医療の提供と健やかな健康維持に貢献できるよう努力してまいります。



ご存知ですか?

現在、乳がんは罹患率、死亡率ともに、一貫して増加傾向にあります。

マンモグラフィは、乳がんの早期発見に有用な検査だといわれています。自覚症状が何もなくても、40歳以上の女性や、乳がんのリスクが高い方(※)は、定期的に乳がん検診を受けましょう。

※早い初潮(11歳以下)、遅い閉経(55歳以上)、初産が遅い(30歳以上)、出産経験がない、肥満である、乳がんにかかった事のある家族がいる、乳腺疾患になった事がある、等。

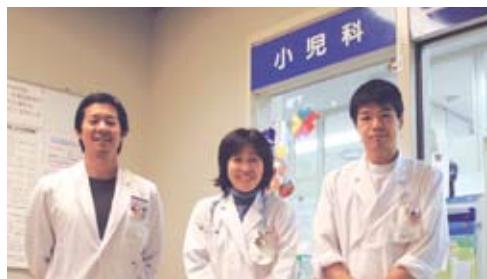
クーポンは2月末までです

乳がん検診・子宮頸がん検診の無料クーポンを送付され、お持ちの方は期間内に受診して下さい。期間は、平成24年2月29日までですが、期間終了間際になると混み合いますので、早めの受診をお勧めします。

アンケートのご協力ありがとうございました

平成23年8月～10月にかけて、乳がん検診(マンモグラフィ併用検診)を受診された方を対象に、待ち時間や検査に関するアンケートを実施しました。結果は追って病院ホームページで公開させていただきます。ぜひ御覧下さい。

小児科より 子どもの症状～急な発熱について～



冬本番で寒さが厳しいこの時期は、よくお子さんがお熱をだしてしまう時期でもあります。

お熱の原因は、大多数が「ウイルス感染症」でいわゆる風邪によるものですが、時にすみやかな診察や処置が必要な場合があります。

主な受診の目安を以下に挙げてみます。

- 1. 生後3ヶ月未満で、38℃以上の発熱があったとき。
- 2. 顔色が悪く、苦しそうにしているとき。
- 3. 元気がなく、ぐったりしているとき。
- 4. 38℃以上の高い熱が出て、頭が痛いとか、吐くなどの症状があるとき。
- 5. 意識がもうろうとしているとき。
- 6. 苦しそうに呼吸をしているとき。
- 7. 強い腹痛をうつたえるとき。
- 8. ひきつけを起こしたとき。

	月	火	水	木	金
午前診 (一般外来)	原田	森田	佐治	田平	原田
午後診 (予約制)	腎臓 (森田)	神経 (田平)	予防接種 (金田)	健診 その他 (原田)	アレルギー (戸田)



受付時間／午前 8:30～11:30

平日は17時まで電話対応しておりますので、小児科外来にお問い合わせ下さい。詳しい診療内容はホームページでもご紹介しています。

市立芦屋病院 小児科：原田 由利香 森田 拓 佐治 洋介